

令和2年度(2020年度)

厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業 実施記録

①アンケート調査

「障害のある人のアート活動への新型コロナウイルスの影響に関する調査」

新型コロナウイルス感染症の広がりを受け、特に障害のある人のアート活動に関して、これまで通り実施できているのか、もし、実施が難しくなっているのであればそれはなぜか、また、今後どのような支援があると良いのか、など、現状を把握するための調査を行うこととしました。

アンケートは施設を対象としたもの、個人を対象としたものの2種類がございます。福祉施設の職員の方などは「施設向け」、個人でアート活動を行っている障害のある方は「個人向け」のフォームよりご回答ください。

回答期間:6月15日～29日

回答: 個人向け=10件(うち追跡調査への回答=1件)

福祉施設=48件(うち追跡調査への回答=7件)

協力:NPO法人エイブル・アート・ジャパン

②オンラインショーケース公演ー障害のある人のパフォーミングアーツ

近畿2府4県から6団体が登場し、障害のある人とのパフォーマンスをオンラインでお届けします。内容は、演劇、即興音楽、人形芝居、ちんどんも！出演者の身体を通して表現される世界観をぜひお楽しみください。

<第1回配信>

日時:9月12日(土)14:00～15:10

出演: おとあそび工房(兵庫/即興音楽)、劇団くらっぷ(奈良/演劇)

<第2回配信>

日時:10月25日(日)14:00～16:30

出演: 人形芝居ぬくぬく座(大阪/人形劇)、劇団まちプロ一座(滋賀/演劇)

ポズック楽団(和歌山/ちんどん)、きょうとWAKUWAKU座(京都/演劇)

(一部事前収録)

<おしゃべりパフォーマンス>

生配信後、上演されたプログラムの記録動画を改めて公開する際に、光島貴之(美術家、鍼灸師)さん監修による「副音声解説」付きの動画を合わせて公開いたします。この動画には、光島さんとともに、おしゃべりな解説者2名(亀井友美さん、小野沙耶花さん)が舞台上で起きているできごとを「ああでもない」

「こうでもない」と話し合う音声を合わせて収録。専門的な知識がなくても取り組める、楽しい音声ガイドづくりを試みます。

協力:アトリエ みつしま Sawa-Tadori

<オープンネットワークミーティング>

第2回公演の配信終了後、本企画の出演団体6組の代表や関係者をおまねきし、作品をつくる時に心がけていることや、活動を継続する秘訣、お困りごとなど、はばひろく話し合うミーティングを開催します。こちらのミーティングはウェブ会議ツール「Zoom」にて中継し、ご希望のみなさまにもご参加いただけます。

対象:福祉施設職員、アーティスト、パフォーマー、舞台スタッフなど。障害のある人の舞台芸術活動に興味のある方や、すでに活動を行っていらっしゃる方。

③障害とアートの相談室オンラインセミナー

障害とアートの相談室では、障害のある人の表現を通し、誰もが自由に表現できる社会、誰もがいきいきと生活できる社会の実現をめざして活動をしてきました。この1年ほどのあいだ、多くの方が社会的な状況の変化にその都度対応しながら日々を過ごしてきました。そんななかで、あらためて福祉や表現の現場がどうあってほしいか、全4回にわたってゲストを招き、参加者のみなさんと一緒に考えたいと思います。各回のトークの後半の1時間は「障害とアートのオンライン相談会」をオープンします

第1回 「からだであらわす」

日時:3月19日(金)18:00~20:00

演劇やダンスといったパフォーマンスアーツの分野では、障害のある人の身体がその場にあらわれま。さまざまな人がアクセスできるオンライン劇場の取り組みをしている篠田さんと一緒に、障害のある人が身体を通して表現すること、それをさまざまな人と共に楽しむことなどについて考えます。

ゲスト:

篠田栞(THEATRE for ALL LAB編集長)、佐藤拓道(たんぼぼの家アートセンターHANA) 藏元徹平(たんぼぼの家アートセンターHANA)

第2回 「たのしむ、つたえる」

日時:3月23日(火)18:00~20:00

活動をはじめてみて、おもしろいものができたり、おもしろい視点や行為を発見すると、誰かに見せたい、伝えたいという気持ちが出てきます。他者とその魅力を共有するには、伝え方にもひと工夫があると、より共感を得やすくなるのではないのでしょうか。「なんでそなんプロジェクト」など、障害のある人の好きなことや日々の営みを、楽しみながらひろく伝えている中野さんと美術家の滝沢さんに、そのまなざしや工夫を聞きます。

ゲスト:中野厚志(株式会社ぬか代表)、丹正和臣(ぬかアートディレクター)、滝沢達史(美術家)

第3回 「はじめる、つづける」

日時:3月26日(金)18:00~20:00

障害のある人と表現活動をしようと思ったときに、一体何から準備すればいいのでしょうか。そもそも、どうして表現活動をしようと思うのでしょうか。一番初めの動機や、スタートするまでの道のりなどをお聞きしながら、障害のある人と表現活動に取り組むことの意義や具体的な方法について考えます。また、そうした活動を継続していくための工夫や心がけについても話し合います。

ゲスト:

妹尾恵依子(一般社団法人アートスペースからふる理事長)、吉永朋希(たんぽぽの家アートセンターHANAアートディレクター)、金澤優希(たんぽぽの家アートセンターHANAスタッフ)

○第4回 「まもって、ひろめる」

日時:3月29日(月)18:00~20:00

表現活動からうまれたものを発信して、その魅力をたくさんの人に知ってほしいと考えたときに、大切なのは、作品や行為、またその元にある障害のある人本人をまもるという視点です。まもりながら、表現を社会に広めていく、その両方を実現するためには、どのような意識や知識が必要なのでしょう。知的財産権にかんする学びの機会をつくっている高島さんと考えます。

ゲスト:高島雄一郎(弁護士)、後安美紀(一般財団法人たんぽぽの家)

④冊子『オープンアトリエのつくりかた』

たんぽぽの家「障害とアートの相談室」では、障害のあるなしにかかわらず誰もが参加できて、自由に表現を楽しむことができる“場”や“活動”を「オープンアトリエ」と呼んでいます。

日々の暮らしの中で様々な人と関わりあいながら、自分を表現でき、関係が築かれつながっていく、このような場が社会の中に広がっていけば、という思いのもと、オープンアトリエのような活動に興味を持つ人が最初の一步を踏み出せる、その背中を押せるような本を作ろうと、冊子『オープンアトリエのつくりかた -表現の場をひらいてつながるためのヒント集』の制作に取り組みました。

本冊子はオープンアトリエ的な活動を実践されている関西の8つの団体取材した中からすくいあげたオープンアトリエをつくる上での具体的なヒントを、気になったものからパラパラと気軽に読める内容になっています。

https://artsoudan.tanpoponoye.org/wp/wp-content/uploads/2021/08/hb20_tsukurikata.pdf